

## 府中市中心市街地活性化基本計画の方向性

**中心市街地に係る地理的及び自然的特性、文化的所産（法 5 条）** P1～2

- 府中市は東京都のほぼ中心に位置し、東京都心から 20km ほど
- 武蔵国府が置かれた地であり、古くから政治・経済・文化の中心地として発展
- 江戸時代には、甲州街道の宿場町「府中宿」として交通・物流の拠点として発展
- 歴史的背景から、武蔵国府跡・大國魂神社・馬場大門のケヤキ並木等の歴史資源を有している

**中心市街地の位置及び区域（法 9 条 2 項 1 号）** P41～48

- 東京都都市計画区域マスタープランにおいて、府中市を交通結節点・商業・福祉・文化等の生活機能が集積する「生活拠点」として広域的な中心性を備えた拠点として設定
- 府中市都市計画マスタープランにおいて、府中駅周辺を市の中心部として位置づけ
- 交通結節点である府中駅と府中本町駅、大國魂神社や武蔵国府跡等の歴史・文化資源、府中駅周辺の大規模商業施設・商店会、イベントや市民生活の拠点となっている公共施設を包括するように区域を設定
- 府中駅を中心に半径約 500m の範囲とし、区域面積は 62.29ha とする

**中心市街地の概要・現状分析** P6～26、38

- 人口増加  
駅前再開発事業により高層住宅を整備したことや、民間開発事業者により高層マンションが建設されたことが要因である。
- 乗降客数の減少  
駅前再開発事業により整備した大規模商業施設の開業に伴い、一時的に増加したものの、近隣駅や周辺市において商業施設が開業したことにより、府中駅前商業施設の集客性が低下しているものと推察される。
- けやき並木通りの歩行者交通量の減少
- 大規模商業施設の年間販売額の減少
- 商業用地の減少

**中心市街地に対する市民意向** P27～37

- 市政世論調査（回答者数 824 人）の結果、府中市近隣の再開発事業が、府中駅周辺の賑わいに影響するとの回答が 48% を占め、半数近い市民が賑わいの低下に危機感を抱いている
- 影響があると回答した市民（400 人）のうち、82% の市民が府中駅周辺の賑わいづくりが必要であると回答し、賑わいづくりの取り組みが必要であるとの認識を示している
- 府中駅周辺の賑わいづくりに必要な取り組みとして、「商業施設の充実」との回答が最も多く、商業施設に関する取組が必要であると考えている市民が多い

**旧法の検証・反省点** P3～5

- 府中市では、旧法計画及び前回計画は策定していないが、市独自の取り組みとして中心市街地の活性化に資する事業を実施してきた
- 府中駅周辺の商業環境の整備のため府中駅南口再開発事業に取り組んでおり、これまでに従来から立地していた商店や大手百貨店、シネマコンプレックス等が入居する大型商業施設を整備している。商業施設の開業に合わせて府中駅の乗降客数が増加するなど、市内や近隣市からの集客に一定の効果があったと推察できるが、商業施設の人出や購買活動が周辺商店会に波及しているとは言い難いのが現状である。商業施設や商店会の役割分担、連携・協力、業態などを調整する場と仕切り役が必要である
- けやき並木通りや府中駅周辺では、イベントや大國魂神社の祭事を年間 40 件ほど開催しており、イベント開催時は多くの人で賑わっている。しかし、多くのイベントでは各主催者が個別に開催していることもあり、人の賑わいと中心部の商業の賑わいが効果的に連動しているとは言えない。イベント同士や商業施設・商店会、東京競馬場等との連携により、人の賑わいと商業の賑わいを連動させる取り組みが必要である

**中心市街地活性化の課題（総括）** P39

- **商業活力の増進（課題①）**  
⇒ 駅前商業施設の集客性の低下や消費者ニーズの変化・後継者不足による商店街の空き店舗化から、中心市街地の商業の賑わいが低下している。
- **回遊性の創出（課題②）**  
⇒ 中心市街地を南北に結ぶけやき並木通りの歩行者交通量が減少していることから、市内外からの来訪者の増加や拠点間を結ぶ回遊の仕掛けづくりが必要である。
- **市民交流の増進（課題③）**  
⇒ 府中市が誇る歴史・文化を継承し、地域資源を活かしたまちづくりを進めるためには、市民活動や市民交流を促進し、新規住民・多様な世代が交流することが必要である。

# 府中市中心市街地活性化基本計画の方向性

活性化の目標（全体のテーマ）（法9条3項2号） P40、49、53

## ◎ 賑わい創出により市民や来訪者が集い交流する文化・歴史ある中心市街地の形成

### 基本方針① P40、49～50

- 商業活性化の推進による魅力あふれるまちづくり（基本方針①）
- ◎ 府中市の中心地にふさわしい商業環境を整備するとともに商業活力を生み出し、その効果が中心市街地にとどまらず全市に波及するような商業のにぎわいづくりを目指す
- ◎ エリアマネジメント協議会「Loveふちゅう賑わい創出委員会」により、商業者間・イベント間の連携や東京競馬場等との広域的な連携を戦略的に行う

### 基本方針② P40、50～51

- 地域資源を活かした賑わいのあふれるまちづくり（基本方針②）
- ◎ 府中市が誇る歴史・文化を活かし、市内外から多くの人々が訪れる賑わいのあるまちを目指す
- ◎ 武蔵国府跡等の歴史・文化資源をソフトとハードの両面から活用する
- ◎ 中心市街地の経済・観光の事業を支援する組織を創設し、イベントや商業・観光事業を戦略的にコーディネート・プロモーションする

### 基本方針③ P40、51～52

- 文化・歴史を育み暮らしやすいまちづくり（基本方針③）
- ◎ 府中市が誇る歴史・文化を守り、次世代へ継承し、市民活動や市民交流が盛んな賑わいのあるまちを目指す
- ◎ 市民活動や市民交流の拠点となる施設を整備し、市民活動・交流を支援する
- ◎ 府中駅前前の公共施設を再配置し、利便性の高いコンパクトなまちづくりを行う

### 目標① P54～56

- 中心市街地の経済活動の活性化
- 《数値目標》  
大規模商業施設年間販売額  
（目標値：370億円）
- 《参考指標》  
空き店舗数

### 目標② P54、57～58

- 来訪者との交流増進
- 《数値目標》  
JRA東京G1開催時の東京競馬場から  
中心市街地内店舗への入込数

### 目標③ P54、59

- 市民交流の増進
- 《数値目標》  
公共施設利用者数  
（目標値：400,000人）

## 課題解決・活性化（目標達成）に向けた主な事業

P50

- ① エリアマネジメント協議会「Loveふちゅう賑わい創出委員会」による地域マネジメント
- ② 府中駅南口再開発事業
- ③ 商店街活性化事業
- ④ 創業支援事業
- ⑤ 決済強化事業

P51

- ① エリアマネジメント協議会「Loveふちゅう賑わい創出委員会」による地域マネジメント（再掲）
- ② 新庁舎建設事業
- ③ 武蔵国府跡保存活用事業
- ④ 日本遺産認定取得 **JRAとの連携**
- ⑤ 観光振興事業

P52

- ① 府中駅南口再開発事業（再掲）
- ② 府中駅南口再開発事業（音楽練習施設）
- ③ 府中駅南口第一地区再開発市民活動拠点施設整備事業
- ④ 新庁舎建設事業（再掲）

## エリア内への波及効果

P49～50

- ①の事業により、従来個別に実施していたイベントや販促活動を、イベント間や商業者間の連携を図り、人の賑わいと商業の賑わいを効果的に連動させ、中心市街地全体に波及させる。
- ②の事業により、市の商業の中心地である府中駅前の商業環境と魅力的な商業施設を整備し、集客の核となる施設をつくる。

P50～51

- ③武蔵国府保存活用事業において新たな拠点施設を整備するとともに、④日本遺産認定取得や①Loveふちゅう賑わい創出委員会において対外的なPR活動等を行うことにより、ハードとソフトの両面から、府中市の歴史・文化資源の活用を進める。また、①Loveふちゅう賑わい創出委員会により東京競馬場との連携等、拠点間を結ぶ回遊の仕掛けを行うことにより、中心市街地の全体の回遊を生み出す。

P51

- 府中駅周辺の公共公益施設を再配置することにより、都市機能の集積を図るとともに、利便性を向上させることにより中心市街地への来訪の機会を増加させる。  
また、市民活動や交流の中心拠点として機能することにより、市民が市民活動やイベントを通じて中心市街地へ訪れることになり、中心市街地内の人の賑わいを生み出す。